

知床世界遺産センター

開館時間：8:30～17:30（4月20日～10月20日）
9:00～16:30（10月21日～4月19日）
休館日：毎週火曜日（10月21日～4月19日のみ）
年末年始
住所：北海道斜里郡斜里町ウトロ西 186-10
電話番号：0152-24-3255
<http://shiretoko-whcc.env.go.jp/>

白神山地世界遺産センター

【西目屋館】

開館時間：8:30～17:00
休館日：毎週土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始
住所：青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田 61-1
電話番号：0172-85-2622
<https://tohoku.env.go.jp/nature/shirakami-sanchi/>

【藤里館】

開館時間：9:00～17:00（3月～11月）
10:00～16:00（12月～2月）
休館日：毎週火曜日（3月～11月）祝祭日の場合は翌日
毎週月・火曜日（12月～2月）祝祭日の場合は翌火曜・水曜 年末年始
住所：秋田県山本郡藤里町藤琴里栗 63
電話番号：0185-79-3005
<http://www.shirakami-fujisatoka.jp/>

小笠原世界遺産センター

開館時間：9:00～17:00 ＊おがさわら丸の父島入港期間中
休館日：おがさわら丸出港中、年末年始
住所：東京都小笠原村父島字西町
電話番号：04998-2-7174
<http://ogasawara-info.jp/>

屋久島世界遺産センター

開館時間：9:00～17:00
休館日：毎週土曜日（12月～2月のみ）、年末年始
住所：鹿児島県熊毛郡屋久島町安房前岳 2739-343
電話番号：0997-46-2992
<https://www.env.go.jp/park/yakushima/ywhcc/index.htm>

奄美大島世界遺産センター

開館時間：9:00～17:00
休館日：毎週木曜日、年末年始
住所：鹿児島県奄美市住用町大字石原 467-1
電話番号：0997-69-2281
<https://amami-whcc.jp/>



環境省

2024年3月発行
発行 環境省自然環境局
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2
環境省ホームページ：
<http://www.env.go.jp/>
日本の世界自然遺産：
<http://www.env.go.jp/nature/isan/worldheritage/>

編集：一般財団法人自然環境研究センター デザイン：株式会社アートポスト
写真提供：飛鳥和弘、大森英孝、工藤誠也、高橋弘、千葉聡、中村征夫、永野裕、
皆川直信、丸田歩、宮川圭司、山田兼博、アマナイメーゼス、ピクスタ、
一般財団法人自然環境研究センター、知床斜里町観光協会、
知床羅臼町観光協会、エジプト大使館観光局

イラスト制作：大方志明、大田黒摩利、河合晴義、田中豊美、箕輪義隆



Shiretoko
知床

Shirakami-Sanchi
白神山地

日本の 世界自然遺産

Yakushima
屋久島

Ogasawara Islands
小笠原諸島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island,
Northern part of Okinawa Island,
and Iriomote Island
奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び西表島

世界遺産とは

人類共通のかけがえのない財産として、
将来の世代に引き継いでいくべき宝物



白神山地 (青森県・秋田県)
Shirakami-Sanchi
面積: 約 17,000 ha 登録年: 1993 年

屋久島 (鹿児島県)
Yakushima
面積: 約 10,700 ha 登録年: 1993 年



知床 (北海道)
Shiretoko
面積: 約 71,100 ha 登録年: 2005 年



小笠原諸島 (東京都)
Ogasawara Islands
面積: 約 7,900 ha 登録年: 2011 年



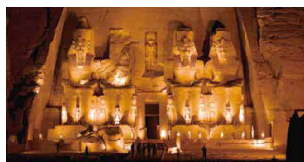
**奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び
西表島** (鹿児島県・沖縄県)
Amami-Oshima Island, Tokunoshima
Island, Northern part of Okinawa Island,
and Iriomote Island
面積: 約 42,700 ha 登録年: 2021 年



世界遺産条約の誕生

1960 年代、ナイル川のアスワンハイダム建設による水没から
アブシンベル神殿を救うため、ユネスコ（国際連合教育科学
文化機関）が遺跡群を移築して保存する国際的な救済キャン
ペーンを行いました。これを契機に、国際的な協力によって
世界的な文化遺産を保護する考え方が打ち出されました。ま
た、1965 年、世界の優れた自然・景観地域、歴史的地域をリス
ト化し、維持管理を支援するための国際的な仕組みがアメ
リカから提案されました。

こうした流れを受けて、1972 年 11 月にユネスコ総会で「世
界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約（世界遺産
条約）」が採択されました。日本は 1992 年に世界遺産条約を
締結しています。



アブシンベル神殿

世界遺産条約の概要

正式名称	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約
目的	世界で唯一の価値を有する遺跡や自然地域などを人類 全体のための遺産として損傷又は破壊等の脅威から保 護し、保存し、国際的な協力及び援助の体制を確立す ること。
事務局	ユネスコ世界遺産センター（パリ）
世界遺産 とは	「顕著な普遍的価値（人類全体にとって特に重要な価 値）」を有し、将来にわたり保全すべき遺産として世界 遺産委員会 [※] が認め、「世界遺産一覧表」に記載された ものが世界遺産です。世界遺産には「自然遺産」と「文 化遺産」、両方の価値を兼ね備えている「複合遺産」が あります。

※ユネスコの下に設置された政府間委員会。締約国から選出された 21 カ国で
構成。委員国の任期は 6 年（国によっては自主的に 4 年に短縮）。

締約国数 195 カ国 世界遺産登録数

・世界遺産総数 1199 件 (25 件)
・自然遺産 227 件 (5 件)
・文化遺産 933 件 (20 件)
・複合遺産 39 件 (0 件)
() 内は日本

※2024 年 3 月現在

世界自然遺産登録の条件

世界自然遺産としての「顕著な普遍的価値」を有するかは、
以下の 3 つの条件を満たすかどうかで判断されます。

- 4 つの「評価基準（クライテリア）」（表参照）の一
つ以上に適合すること。
- 「完全性の条件（顕著な普遍的価値を示すための
要素がそろう、適切な面積を有し、開発等の影響
を受けず、自然の本来の姿が維持されていること）」
を満たすこと。
- 顕著な普遍的価値を長期的に維持できるように、
十分な「保護管理」が行われていること。

これらの 3 つの条件を満たす場合、「顕著な普遍的価値」を
有する地域、即ち世界で唯一の価値を有する重要な地域と
して世界遺産に認められます。

世界遺産の評価基準（自然遺産）

自然遺産に登録されるためには 4 つの評価基準「自然美」
「地形・地質」「生態系」「生物多様性」のいずれかを満
たす必要があります。

(vii) 自然美	最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的 価値を有する地域を包含する。 屋久島
(viii) 地形・地質	生命進化の記録や、地形形成における重要な進行 中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は 自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要 な段階を代表する顕著な見本である。
(ix) 生態系	陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集 の進化、発展において、重要な進行中の生態学 的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本 である。 知床 白神山地 小笠原諸島 屋久島
(x) 生物多様性	学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶 滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の 生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を 包含する。 知床 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

*番号 (i) ~ (vi) は文化遺産の評価基準です。

世界自然遺産地域の保護管理

世界自然遺産は、その価値を将来にわたって維持していくた
めに、適切に保護管理されていることが必要です。このため、
世界自然遺産地域は、国が責任をもって管理できる国立公園、
自然環境保全地域、森林生態系保護地域、天然記念物など、
国の法律や制度等に基づく保全措置が講じられています。

保護管理のための体制

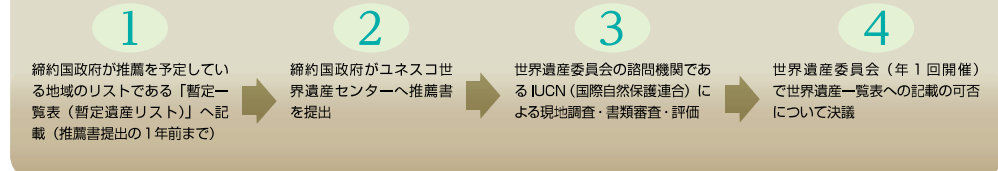
遺産地域では、自然環境の保護管理に係る制度を所管する行
政機関と地域の団体及び学識者等が連携し、科学的知見に基
づき、適切な保護管理を行うことが必要です。

そのため、各遺産地域において、地域連絡会議及び科学委員会
を設置、運営するとともに、遺産地域管理計画を定めて、保護
管理の取組を進めています。

地域連絡会議	環境省や林野庁、関係自治体及び地域の関係団体 等で構成される会議。世界自然遺産地域の管理に ついての連絡調整・合意形成を行う。
科学委員会	自然科学や社会科学の専門家で構成する委員会。 世界自然遺産地域の適切な保護管理に必要な科学 的助言を行う。
遺産地域 管理計画	保全管理に関する方針、体制、各種制度の運用方 針等を明らかにした管理計画。この管理計画のも とで、関係者が緊密に連携・協議して適切な保護 管理の事業等を進める。



世界自然遺産登録までのプロセス



知床

Shiretoko



知床半島は北海道の北東部に位置し、火山活動などによって形成された標高1,500m級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などにより構成されています。世界遺産登録区域はこの知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺の海を含む約71,100haの地域です。



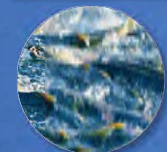
知床羅臼ビジターセンター
羅臼側の玄関口として自然、文化、利用等に関する情報を展示・解説する。野生生物に関する調査や鳥獣保護の拠点としても重要な役割を果たしている。1983年環境省設置、2007年移築・建替。



知床世界遺産ルサフィールドハウス
知床半島先端部の自然の素晴らしさ、知床の海と陸の生態系のつながり、人々の生活と密接に関わってきた知床の「海」の価値を伝える。ルール・マナーのレクチャーも行う。2009年環境省設置。



ホエールウォッチング
主にミンククジラ、ツチクジラ、マッコウクジラ、シャチ、イシイルカ、カマイルカ、ネズミイルカなどが確認される。ミンククジラやシャチは5～6月頃、マッコウクジラは8～9月頃が観察のピーク。



サケ科魚類
9月下旬～11月上旬にかけて、サケ科魚類の大群が産卵のために川を遡上する。海と陸の生態系を繋ぐ特徴的な群。



トド
知床ではスケウダラなどを食物資源にしている。知床半島沿岸海域に来遊するトドの多くはメスを中心とした100頭規模の群れて、ロシア周辺海域で交尾、妊娠した個体が出産のために栄養を蓄えにやって来る。

※ 環境省版レッドリスト
絶滅危惧ⅠA類 (CR)
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
絶滅の危険が増大している種



羅臼湖
知床半島最大の湖沼。羅臼湖周辺はダケカンバ、トドマツの深い原生林の合間に、湿原や雪田が点在し、チングルマ、エゾコサクラなどの高山植物が季節ごとに異なる表情を見せる。羅臼湖に至るトレッキングルートは、登山同様の装備と経験が必須。

サシイル岬

▲ トツカリムイ岳 561m

▲ 知床岳 1254m

▲ ポロモイ岳 992m

世界自然遺産の登録区域
A 地区：厳正な保護管理を回る地域
B 地区：自然環境の保全を基本として利用との両立を回る地域



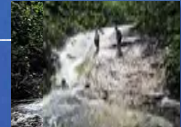
海氷（流氷）
オホーツク海は、世界で最も低緯度で海氷ができる海洋。海氷がもたらす豊富なプランクトン類に支えられた生産性の高い海洋生態系が形成される。



硫黄山
羅臼岳とともに知床半島の活火山の一つで、高純度の溶解硫黄を大量に噴出する世界的にも特異な火山。標高1,562m。



オオワシ
ロシア極東部だけで繁殖する大型のワシで、全世界で5,000羽程度と推定されている希少な鳥。知床半島では、一冬に2,000羽以上が越冬した記録がある。
※ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



カムイワッカ湯の滝
水が硫黄分を含むことからアイヌ語で「神（廣）の水」の意味を持つ。川全体が温泉のようになっている。適切な装備があれば沢登りも楽しむことができる。



オジロワシ
ユーラシア北部に広く分布し、知床半島でも繁殖する。豊富な餌資源のある知床は、世界有数の高い密度で営巣が行われる重要な繁殖地である。
※ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



シレットコスミレ
知床と択捉島、国後島だけに分布。シレットコスミレ群落は、硫黄山・東岳・知床別岳・南岳の火山荒原と遺跡別岳・知西別岳間の鞍部の風衝荒原に見られる。



シマフクロウ
世界最大のフクロウ。種レベルで全世界に1,000羽程度しか生息していない希少な鳥。北海道全体で165羽程度生息し、世界自然遺産地域にはその4分の1程度が生息すると考えられる。
※ 絶滅危惧ⅠA類 (CR)



エゾシカ
ベトナムから極東アジアにかけて広く分布するニホンジカの1亜種。ニホンジカでは最も大きい。近年、個体数が増加しており、森林や草原の植物への食害をもたらしている。



ヒグマ
知床半島は、世界有数のヒグマの高密度生息地域。海岸や高山の草本、森の木の葉、川にのぼるサケマスなど、森と海の恵みの両方を利用できるため、90種以上を食物資源にしている。



※ 注意
冬季は、知床横断道路が冬期全面通行止めとなるため注意が必要です。

知床世界遺産センター
タブレット端末によるバーチャル体験や、触れて学べる動物のぬいぐるみを展示し、知床の自然の魅力と利用のルール・マナーを伝える。リアルタイム情報や遺産地域の管理について最新の情報も提供している。2009年環境省設置。
※ 裏表紙参照



海食崖
知床半島では、火山活動と海食が組み合わさることによって、断崖絶壁が作られた。特にウトロ側の海岸線は、最高200mの高さにもなる断崖が続き、さまざまな滝や奇岩が見られる。



フレベの滝
垂直に切り立った約100mの断崖の割れ目から地下水が流れ落ちる滝。地元では「乙女の涙」という愛称で親しまれている。



羅臼岳
知床半島にある火山群の主峰及び最高峰で標高1,661m。日本百名山のひとつ。登山には十分な装備と経験が必須。

知床 Shiretoko

顕著な普遍的価値



(ix) 生態系

海水の影響を受けた海と陸の生態系の豊かなつながり

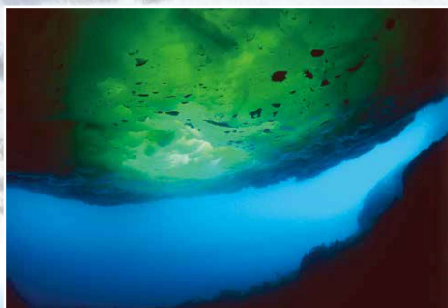


(x) 生物多様性

動植物ともに北方系と南方系の種が混在することによって、多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育するなど、生物の多様性を維持するために重要な地域

豊かな生命を支える海水

オホーツク海の知床沿岸域は、海氷ができる海洋の中では世界で最も低緯度に位置しています。海氷ができると表層の海水が冷却されて海水の上下の循環が促進され、海の下層に蓄積されていた栄養塩類が表層まで浮上します。そして春になると、表層は、光合成に十分な太陽光に恵まれるため、下層からあがってきた栄養塩類を利用して植物プランクトンが爆発的に増殖します。こうして海水によってもたらされた大量のプランクトンは、海・川・森とつながる知床の豊かな生態系を支える食物連鎖の出発点となります。



水中から見た海水



海と川と森でつながるいのち

知床の豊かな海は、プランクトンをはじめに、魚類や海鳥類、鯨類などの海洋生物を育みます。シロサケ、カラフトマスなどのサケ科魚類は海から川を遡り、ヒグマや猛禽類の重要な食物資源となります。食べ残された魚もキツネなどの糧となり、最後は土に還り森の栄養分となります。このように知床では海・川・陸にわたるダイナミックな食物網が形成されています。また、動植物ともに北方系と南方系の種が混在しており、これらの生物が密接に影響し合って豊かな生態系を形づくっています。この豊かな生態系は国際的な希少種のシマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの種の存続に不可欠な場所でもあります。

知床世界自然遺産の保護管理

知床については、世界遺産委員会から、エゾシカ対策、観光管理、海域管理計画の策定、サケ類へのダムによる影響とその対策のためのサケ科魚類管理計画の策定などが課題として指摘され、対応を求められています。このため、科学委員会の下に河川工作物アドバイザー会議、海域ワーキンググループ（以下 WG）、エゾシカ・陸上生態系 WG、適正利用・エコツーリズム検討会議などを設置して対応の検討を進めています。

世界遺産登録区域内の保護地域の面積

知床国立公園	特別保護地区：23,526 ha
	特別地域：15,110 ha
	遠音別岳原生自然環境保全地域：1,895 ha

(環境省所管の保護地域)

取り組み事例



エゾシカ対策

近年、遺産地域内ではエゾシカが激増し、植生変化などの生態系への影響が出ています。影響を軽減するために、環境省をはじめとする国と関係する地方自治体は、「知床半島エゾシカ保護管理計画」などに基づき、エゾシカ・陸上生態系 WG から助言を得つつ、連携してエゾシカの捕獲によって個体数調整を行っています。個体数調整を実施している地域では、植生が徐々に回復していることが確認されています。



高架木道と利用調整地区制度

知床五湖の遊歩道では、ヒグマ出没による度重なる閉鎖や、混雑に伴う植生への悪影響などの課題がありました。これらを解決するために、ヒグマと接触する危険がなく安全に散策できる高架木道を設置し、平成 23 年からは自然公園法に基づく利用調整地区制度を適用しました。混雑時期には地上歩道への立入を認定制とすることで植生への影響の低減を図り、自然景観や生物多様性を維持しています。



海域の生物多様性の維持と漁業活動の両立

平成 19 年に生態系保全と持続的な漁業との共存を目指す「多利用型統合的漁業管理計画」が環境省と北海道によって策定されました。この計画によって、「漁業者による自主規制」を遺産地域の管理に組み込み、知床の海の生物多様性を維持しながら地域の生業である漁業を両立させる管理方式が実現されました。この管理方式は、遺産地域の新しい管理手法のモデル「知床方式」として世界的にも高く評価されています。



知床エコツーリズム戦略

知床における観光利用の推進にあたっての将来目標とそれを達成するための方法を遺産地域の全ての関係者が共有することを目的として、平成 25 年に知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議が「知床エコツーリズム戦略」を作成しました。この戦略のもとでは、新しい観光利用や新たなルール作りといった提案を誰でも自由に行うことができるようになるため、より一層開かれた地域主導の取り組みが推進されます。



改良事例

河川工作物の改良

知床の一部の河川では、人工的に作られた治山ダムなどの河川工作物によってサケ科魚類が産卵のために上流に遡ることができなくなっていました。そこで、河川工作物 WG（現在は河川工作物アドバイザー会議）の助言のもと、改良が適当と判断された 13 基の河川工作物について魚道の設置などの改良工事が実施されました。その結果、工作物上流での産卵範囲が拡大し、産卵数も増加したことが報告されています。

ヒグマと共に生きるために

近年、観光客などによるヒグマへの撮影目的の異常接近や餌付けなどによるトラブルが危惧されています。一度人間の食べ物の味を覚えたヒグマは人や家畜に近づくようになり、安全対策のために駆除されることもあります。撮影のための接近、残飯などのゴミの放置、餌付けといった行為は厳に慎む必要があります。知床では 2020 年より、関係機関が連携し、「知床ディスタンス！キャンペーン」を実施しており、ヒグマなどの野生動物を見かけた際の十分な距離の確保などを呼び掛けています。



白神山地

Shirakami-Sanchi

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高約 200m から 1,250m に及ぶ山岳地帯の総称です。世界自然遺産に登録されたのはこの白神山地の中心部に位置する約 17,000ha の地域で、広大で原生的なブナ林が残されています。



クマゲラ

国内のキツツキの仲間では最も大きなもので、北海道と本州北部に生息。国の天然記念物。
※絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



くろくまの滝

日本の滝百選にも数えられるこの滝は落差 85m で、青森県最大級。駐車場より徒歩約 15 分。



白神の森 遊山道「くろもり館」

展示室や休憩室が備えられた緩急室内休憩所。江戸時代から米田の水を確保するため、旧弘前藩の直轄林として保護されてきた「黒森」の一部が見られる散策路のスタート地点。1997 年熊ヶ沢町設置。



津軽峠

暗門大橋から白神ラインを車で 20 分ほど登ったところにあり、適宜地域の山並みを展望できる。津軽峠から遊歩道を数分行くと、推定樹齢約 400 年の巨木、マザーツリーを見ることができる。



白神山地ビジターセンター

白神山地のブナ林について詳しく解説されている。映像体験ホールでは巨大スクリーンで臨場感あるサウンドと映像で白神山地の四季を見ることができる。1998 年青森県設置。



ブナ林

雪の多い白神山地では、よく雪に耐えることのできるブナの純林が発達している。林床にササが多く、すらりとした灰白色のブナの幹が立ち並んだ森の様子は、東アジア地域のブナ林にしか見られない独特の景観。ブナは保水力が高いことや、野生動物の生息地として重要なこともよく知られている。



白神山地世界遺産センター (西目屋館)

白神山地の保全管理と調査研究のための拠点施設。白神山地の資料や写真などを展示しているほか、子どもたちを対象とした環境教育活動も行っている。1997 年環境省設置。
※裏表紙参照



岳岳自然観察教育林

ブナを主とする天然林で、森林浴に最適。林道沿いにあり、手軽に白神山地の原生的なブナ林の雰囲気を感じられる。林内の歩道の一部にユニバーサルデザインを取り入れたウッドチップ舗装道を整備している。



ツキノワグマ

体長 120~145cm、体重 70~120kg。胸に白く三日月の模様があるのが特徴。本州に生息する最大の陸上哺乳類、雑食性だが、植物質の割合が多い。



白神山地世界遺産センター (蔵里館)

白神山地の自然や世界遺産に関する資料を展示しており、図書コーナーや DVD を見ながら休憩できるスペースがある。自然アドバイザーが常駐し、来館者への案内、解説を行うほか、自然観察会や子どもたちを対象とした環境教育活動を行っている。1998 年環境省設置。
※裏表紙参照



シラガミクワガタ

「白神」の名をもつ唯一の植物で、岩場や草に生える。固有種。



フジミドリシジミ

羽表が金属光沢の美しいチョウ。幼虫がブナの葉しか食べないため、ブナ林以外で見ることができない。



アオモリマンテマ

岩場に生える多年草で、6 月頃に直径 2cm くらいの可憐な白い花を咲かせる。固有種。
※絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



イヌワシ

翼長 2m を超える大型のワシ。山岳地帯に棲息し、切り立った崖に営巣する。国の天然記念物及び国内希少野生動物植物種。
※絶滅危惧Ⅰ類 (EN)



暗門の滝

三段からなる滝で上から順に「一の滝」42m、「二の滝」37m、「三の滝」26m が点在し、いずれも迫力のある姿をしている。



白神岳

白神山地のなかでは向白神岳に次いで 2 番目の高さを誇る (標高 1,235m)。山頂からは遺産地域と日本海を一望できる。



ニツ森

標高 1,086m の山頂からは遺産地域が一望できる。ニツ森登山道入口 (標高約 920m、駐車場、公衆トイレあり) から頂上までは 1 時間弱かかる。



十二湖エコ・ミュージアムセンター「湖郷館」

自然に関するハイビジョン映像やジオラマなどの展示物が見られる。遊歩道や観察小屋を使って、自然を体験することもできる。1999 年青森県設置。



十二湖

青森県側の白神山地西部に位置するブナ林に囲まれた 33 の湖沼群。江戸時代に発生した大地震による山崩れによってできたといわれている。周辺道路は冬期通行止め。

世界自然遺産の登録区域

- A 地域：厳正な保護管理を図る地域
- B 地域：自然環境の保全を基本として利用との両立を図る地域



※環境省レッドリスト

絶滅危惧Ⅰ類 (EN)
近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
絶滅の危険が増大している種

白神山地

Shirakami-Sanchi

顕著な普遍的価値

☑️ (ix) 生態系

東アジアで最大の原生的なブナ林で、世界の他の地域のブナ林よりも多様性に富んでいる

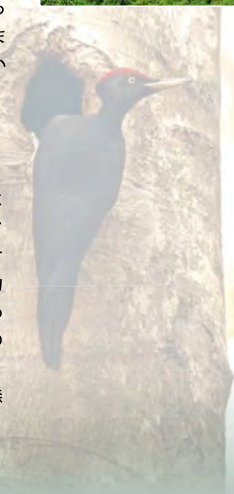
生き残った原生的な森

白神山地には、これまで人為的な開発が入らず、東アジア最大の原生的なブナ林が広がっています。

ブナ林はかつて地球が今よりも温暖だった時代には北極周辺に分布し、今では氷河期の生き残り（遺存種）といわれるアオモリマンテマやツガルミセバヤなど、ブナ以外の多様な植物も生育していました。氷河期に入ると気候の寒冷化に対応してブナ林が南へと移動しましたが、この際、ヨーロッパなど世界の多くの地域ではブナ以外の植物は東西に広がる山岳に妨げられて南下することができず、新しい場所に速やかに進出できるブナだけが南下したため、ブナ林の植生が単純化していきました。しかし、日本では、分布の南下を妨げる山岳がなかったため、北極周辺での植物群落の種組成をほぼ維持したまま南下しました。そのため、白神山地は約 3,000 万年前に北極周辺に分布していた当時に近い特異なブナ林が維持されています。

森の博物館

白神山地は冬には日本海側の湿った空気を受けるため、世界的に見ても雪が非常に多く、ブナ林の地面には、チシマザサに代表されるような、多雪環境を反映した植生がみられます。また、アオモリマンテマなどの地域固有の植物をはじめ、540 種以上の植物が生育しています。白神山地には、イヌワシやクマゲラをはじめとする希少な鳥類や、カモシカやツキノワグマをはじめ、35 種の哺乳類、94 種の鳥類、約 2,200 種の昆虫類などが生息しています。白神山地のブナ林は、我が国の固有種であるブナを中心とした森林生態系の博物館と言えるでしょう。



白神山地世界自然遺産の保護管理

世界遺産登録区域内の保護地域の面積

白神山地自然環境保全地域： 14,043 ha

(環境省所管の保護地域)

白神山地世界遺産地域の原生的なブナ林は、関係者のパトロール、各種法令・ルールに基づく管理等によって保全されており、世界遺産としての価値が損なわれるような大きな問題は、現在は顕在化していません。しかし、将来的に気候変動の影響等の課題が生じる可能性が指摘されているため、継続的な自然環境のモニタリングが必要です。白神山地では、行政関係者、専門家、地元関係者が協力してこれらの保全のための取り組みを進めています。

取り組み事例



パトロール

遺産地域が適切に保全されるように環境省のレンジャーなど行政機関の職員や、各機関が雇用した巡視員やボランティア巡視員が定期的にパトロールを行っています。パトロールでは、立ち入りが制限されている核心地域への入山、樹木の伐採・損傷、植物の盗掘、禁漁区での密漁、ゴミの投棄、たき火の防止等を図るとともに、入山者に対するマナーの啓発や入山手続き等の指導も行っています。白神山地世界遺産地域連絡会議が主催して、関係者が一堂に会して行う合同パトロールも年に数回実施しています。



エコツーリズムの推進

「環白神エコツーリズム推進協議会」が平成 23 年に発足しました。この協議会は、遺産地域とその周辺地域において、地域住民や地域関係者等が一体となって、エコツーリズムに取り組むことを目的に、地元の方に白神山地での過去からの自然との関わり方を聞いたり、「じまんできる・大切にしたい・誇りに思う」歴史文化、食材、自然に関するアンケートを行うなど、地域資源を掘り起こす活動を行っています。エコツーリズムを推進することにより、地域ぐるみで地域固有の魅力を観光客に伝え、その価値や大切さを理解してもらい、保全につなげていくことを期待しています。



モニタリング調査

将来、地球温暖化や大気汚染等によって白神山地世界遺産地域にとって重要なブナ林にどのような影響が出るのかを早期に見つけ出す事は、とても重要なことです。そのため、継続的にモニタリング活動が行われており、気象や植生などの自然科学的な内容ばかりでなく、入山者数などの社会科学的内容も含めて白神山地の変化状況を見守っています。調査の継続には多くの人材が必要ことから、一般の方々や学生、研究者、行政機関が協働で行っています。

自然体験プログラム

遺産地域では、子どもたちに自然体験を通して、自然の素晴らしさや人と自然とのつながりを学んでもらうためのさまざまな自然体験プログラムを開催しています。

実際に白神山地の自然の恵みを受けながら暮らしてきた川や山の達人たちと一緒に自然の中に入り、マタギに昔ながらの食文化や狩猟についての話を聞いたり、川漁師に漁の知恵を教わったりしています。また、環境省レンジャーと一緒に、森のパトロールや生き物調査を通して自然の素晴らしさを学ぶプログラムも実施し、白神山地を生き教材とした環境教育を進めています。



マタギの知恵を学ぶ

小笠原諸島

Ogasawara Islands

小笠原諸島は東京から南に約 1,000km 離れた位置にあり、「ボニンブルー」* とよばれる紺碧の海と切り立った断崖に囲まれた大小 30 ほどの島々からなります。世界遺産の区域となっているのは、聳島列島、父島列島、母島列島、北硫黄島、南硫黄島、西之島で、総面積は約 7,900ha です。有人島の父島、母島では、集落を除いた区域と周辺の海域の一部が世界遺産の区域となっています。

*小笠原諸島には 1830 年まで定住者はおらず、「無人島（ボニン・アイランド）」と呼ばれていました。



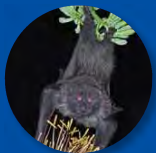
ボニナイト

海洋プレート沈み込みが始まって間もない時期にのみ発生する特殊な岩石。小笠原諸島の「ボニンアイランド」から命名され、世界で最も大規模に露出。



貨幣石

単細胞生物で大型の底生有孔虫の化石。コインに似た形状から命名。



オガサワラオコウモリ

オコウモリ科に属する小笠原諸島唯一の固有哺乳類。父島、母島、火山列島に生息が確認される。国の天然記念物。
*絶滅危惧ⅠB類 (EN)



ワダンノキ

母島列島の固有種で、樹高 4 ~ 5m にもなるキク科の植物。種分化の過程で草本が木本に進化した植物と考えられている。
*絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



陸産貝類 (カタツムリの仲間)

約 100 種の在来種のうち、90%以上が固有種で、固有種率が極めて高く、また、現在も新種の発見が続いている。これらの点が、小笠原諸島が世界遺産として認められる一つの鍵となった。



ホエールウォッチング

近海にはイルカやクジラが 23 種以上確認されている。サトウクジラは冬から春にかけて、イルカ類やマッコウクジラは年間を通して観察することができる。



メグロ

母島とその属島である向島、妹島の 3 島にのみ生息する小笠原諸島の固有の陸鳥。競争者や捕食者が少ないため森林内の様々な場所を利用している。
*絶滅危惧ⅠB類 (EN)

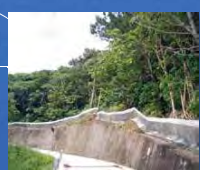
聳島列島



母島列島



<小笠原諸島> (小笠原村)



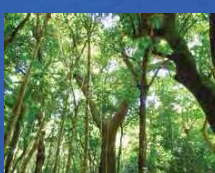
外来種侵入防止柵
母島の新タロヶ丘では、オガサワラシジミなどの希少な昆虫類を捕食するグリーンシアノールの侵入防止柵を設置するとともに、柵内に粘着トラップを使った排除を進めている。カツオドリなどの海鳥の繁殖地となっている母島の南崎では、ノネコ侵入防止柵を設置し、海鳥の繁殖地へのノネコの侵入を防いでいる。

姪島



显性高木林

小笠原が無人島であった時代には、広範囲に分布していたと考えられるが、開拓により減少し、母島など一部地域の遼闊な環境下に見られるのみとなった。樹高 20m に達する背の高い森林が見られ、林冠層は「こぶのき」として親しまれているシマホルトノキ、アカテツなどによって構成されている。材として伐採され、今では希少な種となったオガサワラグワも見られる。



乾性低木林

父島の中央山東平や兄島などを中心に、背の低い森林が広がる。乾燥した気候に合わせて、小さく厚く葉の形を変えたり、海沿いの強風を避けるため、背が低くなるなどの進化をした固有の植物が生育する。



小笠原ビジターセンター

小笠原の自然を中心に、歴史や文化を紹介した施設。捕鯨基地や占領地などとして特異な道歩んだ歴史や、小笠原にしかない固有種などの珍しい動植物に関する展示や解説が行われている。1988 年東京都設置。



長崎展望台

「ボニンブルー」と呼ばれる紺碧の海が広がる兄島瀬戸や、兄島などを見渡すことができる。



父島

父島列島



アカガシラカラスバト

父島の中央山東平や兄島などに生息する固有亜種。野生化したノネコに捕食されるなどして、その数が減少したが、近年、ノネコ対策等の保全活動により、個体数が回復している。国の天然記念物。
*絶滅危惧ⅠA類 (CR)



小笠原世界遺産センター

展示を通じて小笠原諸島の世界遺産の価値や取組を紹介するとともに、希少な陸産貝類やオガサワラハンミョウの生息域外保全を実施しており、小笠原諸島の保全管理の拠点となっている。2017 年環境省設置。
*表紙紙参照

沈水カルスト (南島)

南島一帯や母島の石門一帯では、石灰岩が侵食や風化を受けてできた「カルスト地形」が見られる。南島周辺はカルスト地形が海中に沈降した沈水カルスト地形が見られる国内でも珍しい場所。



東京都



<小笠原諸島>

* 環境省版レッドリスト

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB類 (EN)

近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

絶滅の危険が増大している種

世界自然遺産の登録区域

小笠原諸島

Ogasawara Islands

顕著な普遍的価値



(ix) 生態系

海洋島※の著しく高い固有種率と現在進行形の生物進化

※ 海洋島：一度も大陸と陸続きになったことがない島

固有種の宝庫

小笠原諸島は東京から約1,000km南に位置し、「ボニンブルー」とよばれる美しい紺碧の海と切り立った断崖に囲まれた島々です。

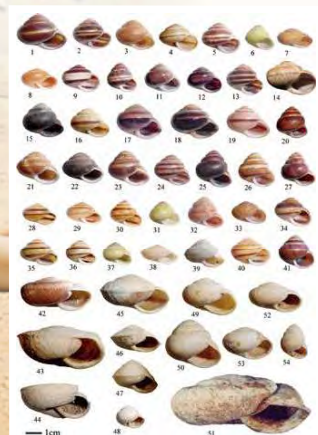
これまで一度も大陸と陸続きになったことがないため、小笠原諸島の生物は鳥に運ばれたり、風に乗って運ばれたり、海流や流木に付着して流されたりして、島に偶然たどり着き、島の環境に適応して生き残ったものの子孫です。島に定着できた種は、その後隔離された環境の下で長期間独自の進化の道を歩み、その結果、小笠原において、ムニンノボタン、オガサワラトンボなど他に見られない固有の動植物が多く誕生しました。小笠原に自生する維管束植物全体の約40%、昆虫は全体の約25%、カタツムリは90%以上(約100種)が固有種です。

現在進行形の生物進化

小笠原諸島の生物進化は現在なお進行中です。とくに、小笠原の島々に暮らすカタツムリや植物は、環境にあわせて形態を変化させ、種分化を繰り返しました。このような進化のプロセスを「適応放散」といいます。さらに海から島に上陸した生物が進化していく仕組みを示唆する重要な例も見られます。例えば、固有種オガサワラカワナは、生息環境を沿岸域から汽水域、純淡水域へ生活の場を広げてきたと考えられます。



スジヒメカタゾウムシの一種



小笠原諸島のカタマイマイ属の多様性

小笠原諸島世界自然遺産の保護管理

小笠原諸島では、生態系に関する課題を解決するための具体的な行動計画を示した「生態系保全アクションプラン」を国、東京都、小笠原村が作成して、保全管理を進めています。

小笠原諸島はその固有種の多さが世界的に評価されていますが、小笠原固有の生物の多くは、後から小笠原に人為的に導入された生物(外来生物)から身を守る方法を知らず、外来生物に食べられたり、生活の場を奪われ、急激にその数を減らしています。小笠原諸島の世界遺産としての価値を維持するためには、外来種対策や固有種等の希少種の保護を進めることが、極めて重要です。このため、科学委員会の助言のもとで、動植物の相互のかかわりを考えて現状を評価し、随時、対策を見直す管理(順応的管理)が行われています。

取り組み事例



グリーンアノール(外来種)

固有の昆虫類の回復のための対策

特定外来生物であるグリーンアノールは、父島や母島の全域に分布しており、オガサワラジミなどの希少昆虫を減少させるなど、捕食により固有の昆虫類に甚大な影響を及ぼしています。2013年には在来昆虫相が数多く残る兄島でも侵入が確認され、オガサワラハンミョウなどの固有の昆虫類への影響が懸念されています。世界自然遺産の生態系を守るため、母島の新夕日ヶ丘では、アノールの侵入防止柵を設置し、柵内部でのアノールの集中的な防除を進めた結果、昆虫相の回復が見られています。また、兄島では、島を横断するアノール柵の設置と粘着トラップによる捕獲を実施してアノールの生息域の拡大を抑止するとともに、アノールの侵入状況や昆虫類の生息状況をモニタリングして、固有の昆虫類を保全してゆくことを目指しています。



島を横断するグリーンアノール柵

在来植生の回復のための外来種対策

外来植物対策

モクマオウやギンネム、アカギなどの外来植物の繁茂により、日当たりや風当たりなどの林内環境が変化するため、在来植物の成長が抑制されてしまいます。また、落ち葉の堆積や日当たりなどの固有昆虫類の生息環境が変化することで、その生息にも影響を与えています。そこで、小笠原諸島では、幹に薬剤を投入して駆除するなどの外来植物除去に向けた取組が実施されています。



モクマオウ(外来種)

ノヤギ対策

ノヤギは固有種を含む植物を食べ、土壌を裸地化させるなど生態系に大きな影響を与えていました。小笠原諸島の無人島では、ノヤギの根絶が達成され、固有の植生の回復が見られているところもあります。現在、ノヤギは父島のみに生息していて、特に希少な固有植物の宝庫である東平地区では、ノヤギの侵入防止柵を設置しています。



ノヤギ侵入防止柵

世界遺産登録区域内の保護地域の面積

小笠原国立公園 特別保護地区: 4,934 ha

特別地域: 996 ha

南硫黄島原生自然環境保全地域: 355 ha

(環境省所管の保護地域)



ネズミによる陸産貝類の食害痕

固有陸産貝類の保全対策

小笠原諸島に生息する固有の陸産貝類は、クマネズミ等の外来ネズミ類や外来ブラナリア類の食害等により、生息状況が著しく悪化し、絶滅の危機に瀕しています。これまで、対策として殺鼠剤を用いたクマネズミの排除やブラナリアの侵入防止柵の設置、またブラナリアの拡散防止のための来島者や島民へ靴底洗浄の呼び掛け等が行われてきました。さらに、環境省では陸産貝類の保全のため、2011年より父島において室内や屋外飼育施設での飼育(域外保全)を実施しています。2020年には父島属島の異島(たつみじま)において、個体群再生のために飼育個体のチチジマカタマイマイ及びアナカタマイマイの野生復帰を行いました。



泥落としとミット

屋久島

Yakushima



世界自然遺産の登録区域



大川の滝
屋久島最大の滝で、88mの落差を大量の水が豪快に流れ落ちていく。日本の滝百選に選ばれている。



ヤクシカ
ニホンジカの亜種。全島的に生息し、人里近くの照葉樹から1,600m以上の高標高地まで広く分布する。

*「幹周り」は、地上から約1.3mの高さで計測した長さをいう。

屋久島は、九州本島最南端から南に約60km、東シナ海と太平洋の間に位置しています。島の中央部には、九州最高峰の宮之浦岳（1,936m）を主峰とする山岳が連座し、その山腹を多数の河川が深い谷を刻んで流れています。温暖多雨な気候で年間降水量は平野部で4,000mm、山頂部では10,000mmを超えるといわれています。世界遺産登録区域はこの屋久島の中心部から西の海岸部におよぶ約10,700haです。



西部地域
屋久島の西部地域は、海岸線まで遺産地域として登録されており、遺産登録にあたり評価された植生の垂直分布が見られる。600haに及ぶ原生的な照葉樹林は日本最大級。



花之江河 小花之江河
屋久島のほぼ中央、標高約1,600mに位置する日本最南端の高層湿原。ミズゴケが一面に生育し、周辺には高山植物群やヤクスギの白骨樹が立ち並び美しい景観を見せる。



縄文杉
現在確認されている中で最大のヤクスギ。縄文杉を含むスギ原生林が特別天然記念物に指定されている。荒川登山口から縄文杉までの行程は往復9～10時間程度かかる。幹周り16.4m、樹高25.3m、推定樹齢2,700年以上。



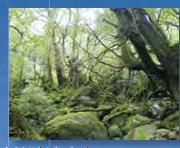
屋久島環境文化村センター
屋久島の自然と人々のくらしを、模型、パネル、ビデオ映像、実物展示などでわかりやすく紹介する。1996年鹿児島県、屋久島町（旧上屋久町・旧屋久町）設置。



大王杉
縄文杉が知られるまでは、最大のヤクスギと言われていた巨木であるため、「大王」の名がついている。幹周り11.1m、樹高24.7m、推定樹齢3,000年以上。



ワイルソソノ株
幹周り13.8mで屋久島最大の切り株。約400年前に伐採されたといわれる。中は10畳ほどの空洞で泉が湧いている。ヤクスギの存在を世界に報じたワイルソソノ博士にちなんで命名。



白谷雲水峽
渓流沿いに広がる蒼むした原生林を鑑賞できる自然休養林。散策コースが設定され、渓流や原生林、推定樹齢3,000年の弥生杉などを見ることが出来る。



紀元杉
シャクナゲやツツジ、ナナカマド、ヤマグルマ、ヒノキなど十種以上もの植物が紀元杉に付着して生育している。幹周り8.1m、樹高19.5m、推定樹齢3,000年。



ヤクシマダケ草原帯
スキの樹林を上りきると、一面に開けたヤクシマダケ草原帯に入る。ところどころにヤクシマシャクナゲ、ハイノキ、アセビなど常緑や落葉の低木が群落をつくる。



屋久島世界遺産センター
2014年、世界遺産と国立公園の魅力を紹介する展示にリニューアル。1996年環境省設置。*裏表紙参照



屋久杉自然館
屋久島と屋久杉を紹介する施設。樹齢1,660年の屋久杉、杉伐採に使われた全長2mのチェーンソー、積雪で折れた縄文杉の巨大な枝などを展示する。1989年屋久島町（旧屋久町）設置。



ヤクシマミドリシジミ
屋久島を代表するチョウ。本州・四国・九州に生息するキリシマミドリシジミの屋久島固有亜種。後翅の尾状突起がほとんど見られないのが特徴。幼虫は照葉樹林のアカガシ・ウラジロガシなどの葉を食べて育つ。



トロノキの滝
鯛ノ川が湧になって直接海に流れおちる。落差は約6mと規模が小さいが、海に直接流れ込む滝は全国でも非常に珍しい。



千尋の滝
落差60mの壮大な滝。モッチョム島の嶺の巨大な花崗岩の岩盤を鯛ノ川が刻んで、壮大なV字谷の景観を作り出している。



ヤクスギランド
樹齢数千年のヤクスギが生育する屋久島の原生林が見られる森。4つの探索歩道があり、樹齢1,800年の仏陀杉などの大木や藩政時代の切り株、試し切り跡などを観察でき、清流を楽しみながら森林浴ができる。

屋久島

Yakushima

顕著な普遍的価値

✓ (vii) 自然美

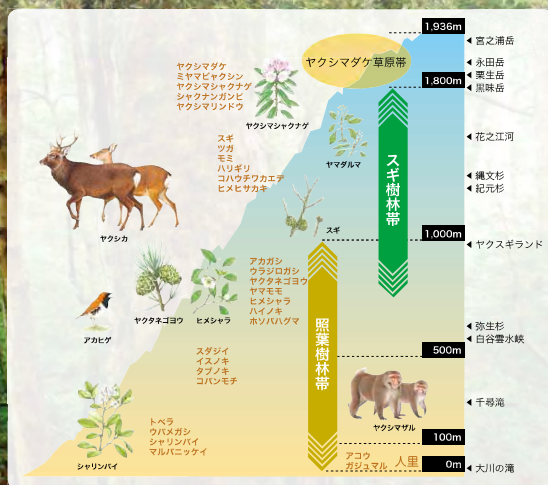
巨大なヤクスギ天然林の景観

✓ (ix) 生態系

植生の垂直分布が顕著な島嶼生態系

亜熱帯から亜高山帯まで

屋久島は日本列島の南に位置しているにもかかわらず、標高約2,000 mの山岳を有することから、ひとつの島の中で南北に長い日本の自然植生を見ることができます。海岸沿いのアコウなど亜熱帯の植物から始まり、標高が上がるにつれスダジイなどの照葉樹林帯、スギ樹林帯、山頂付近には冷温帯性ササ草原や高層湿原、亜高山帯の低木林と連続する植生の垂直分布に日本の自然植生が凝縮されています。また、屋久島に固有の植物であるヤクシマリンドウ、屋久島を南限とするスギや、北限とするナンテンカズラなどの植物が数多く分布しています。



雨に包まれた島

屋久島は、「ひと月に35日雨が降る」と言われるほど雨が多い島です。年間降水量は8,000mmを超え、日本の年平均降水量の5倍近く、世界の年平均降水量の10倍近くにもなります。一般的なスギの寿命は最大800年程度とされていますが、土壌の栄養が乏しい屋久島では天然スギの成長が非常に遅いため、年輪が緻密で樹脂を多く含み、湿度の高い気候でも腐りにくい「ヤクスギ」と呼ばれる樹齢1,000年以上の天然スギも多く生育しています。高湿度の環境に適応したホソバハグマ等の溪流植物や着生植物とともに、世界に類を見ない特異な森林景観を見せています。

屋久島世界自然遺産の保護管理

屋久島では、人々が山や海から豊かな恵みを受け、自然を畏敬し、自然を損なうことなく共生してきた生活文化があります。屋久島では、世界自然遺産に登録される前から、こうした屋久島独自の生活文化に根ざした地域のあり方を「屋久島環境文化村構想」としてまとめ、地元住民や専門家、行政機関が共有してきました。遺産登録後も、観光客や登山者の増加による自然環境への影響、ヤクシカによる食害等の課題が存在する中、自然環境の保護と地域振興の両立を目指して課題への取り組みが進められています。

世界遺産登録区域内の保護地域の面積

屋久島国立公園 特別保護地区：7,419 ha

特別地域：2,109 ha

屋久島原生自然環境保全地域：1,219 ha

(環境省所管の保護地域)

取り組み事例



登山道に転用されたトロッコ道

縄文杉への登山者対策をはじめとした適正利用の推進

平成元年に九州本土と屋久島をつなぐ高速船が就航した後、島への入込み客数は急増し、遺産登録後もその傾向が続きました。平成12年に約16万人であった登山者数は平成20年に約33万人でピークを迎え、近年は約20万人程度で推移しています。利用者の増加による登山道の荒廃等が生じたため、環境省をはじめとする関係行政機関では、地元関係者の協力を得ながら、環境保全対策として登山道やトイレなどの施設整備、携帯トイレの導入、マイカー規制の実施と登山バスの運行などを行い、質の高い利用体験の提供を目的に、利用集中等により生じる自然環境や利用体験への影響の回避、低減に取り組んでいます。また、屋久島町エコツーリズム推進協議会を立ち上げ、山岳部だけではなく島内の各集落に今も残る昔ながらの生活様式や伝統を体験するエコツアーの導入を推進するとともに、屋久島でのエコツーリズムを実施する際のルールや自然観光資源をまとめた全体構想の策定を進めています。



混雑時のワイルソソ株周辺

ヤクシカ対策

屋久島では、古くから「人2万、サル2万、シカ2万」と言われ、ヤクシカは島を代表する野生動物として親しまれてきました。要因は定かではありませんが、昭和42年頃からヤクシカの捕獲数が減少したため、地元からの要望もあり昭和46年から捕獲を規制する保護対策がとられました。その後、個体数は回復しましたが、増加したヤクシカによる農林業被害が発生するようになり、世界遺産地域やその周辺でも、希少な植物や屋久島に固有の植物への食害が広がり、森林植生への影響も懸念されるようになりました。そこで、平成22年に屋久島世界遺産地域科学委員会の下にヤクシカ・ワーキンググループが設置され、関係行政機関と専門家が一体となって対策を進めています。平成23年度以降、「屋久島生態系維持回復事業計画」と「鹿児島県第二種特定鳥獣保護管理計画（ヤクシカ）」を策定し、「遺産地域管理計画」とともに、遺産地域の保護管理に資する適正な生息密度になるようなヤクシカの個体数管理を進め、植生保護などの生態系の維持回復を実施しています。



たけまい

屋久島の山岳信仰「岳参り」

屋久島には古くから「岳参り」という伝統行事があり、現在まで受け継がれています。宮之浦岳、永田岳、栗生岳、太忠岳、愛子岳など、遺産地域にある山々も岳参りの対象となっており、山頂に建立された石祠に参拝し、除災平穏と豊稔を祈願します。屋久島では、集落から見えない山を「前岳」と呼び、その奥にそびえる集落からは見えない山を「奥岳」と呼びます。厳しい自然が広がり、容易に人が近づくことのできない奥岳に対する畏敬の念が、岳参りという伝統を育んだと考えられています。地域住民はこうした自然を敬う価値観や理念のもとで自然との共生を図ってきました。これらも屋久島世界遺産地域の自然環境を保全するにあたっての根本的な考え方として留意されるべきものであり、「遺産地域管理計画」では地域住民の価値観や理念を踏まえた保全管理を行うこととしています。



奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island,
Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island

世界自然遺産の登録区域は、鹿児島県の奄美大島と徳之島、沖縄県の沖縄島北部と西表島の4つの地域（徳之島は2つの登録区域からなる）で構成される約42,700haの陸域です。日本列島の南端部に位置する琉球列島の一部の島々であり、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受け、温暖・多湿な亜熱帯性気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われています。このように亜熱帯域に多雨林が発達するのは、世界的にも稀であり、この地域の大きな特徴です。



常緑広葉樹林

登録区域で最も広い面積を占める植生。頻繁に通過する台風による定期的攪乱と、地形の複雑さが生物の多様な生息・生育環境を形成しており、豊かな生物多様性を与えている。



雲霧林

登録区域のなかで最も標高の高い奄美大島の湯湾岳（標高694m）をはじめ、徳之島の井之川岳（標高645m）、沖縄島の与那覇岳（標高503m）、西表島の古見岳（497m）などでは、日射量が限られた空中湿度が高い雲霧林があり、蕨苔類や着生おおよび地生のランやシダ植物等が生育する豊かな森林が形成されている。



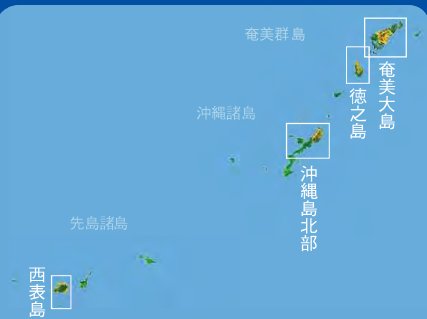
溪流帯

この地域では頻繁な降雨により、河川の中上流部に、川床や川岸が、周期的に冠水する溪流帯が形成されている。そこには、溪流植物と呼ばれる、急激な降水時のときは激流にもまれ、減水すると乾燥する特殊な環境に適応した植物が生育しており、これらには琉球列島の固有種や絶滅危惧種が多く含まれている。



マングローブ林

国内でまとまった面積のマングローブ林が見られるのは琉球列島のみで、奄美大島の住用川河口のものがその北限である。西表島では仲間川、浦内川、後良川等の河口にマングローブ林が発達している。



世界自然遺産の登録区域
緩衝地帯

※環境省版レッドリスト
絶滅危惧ⅠA類 (CR)
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
絶滅の危険が増大している種



アマミマルバネクワガタ

奄美大島と徳之島の固有種。マルバネクワガタ属は琉球列島で4種・2亜種に分化しており、沖縄島にはオキナワマルバネクワガタ、西表島にはヤエヤママルバネクワガタとチャイロマルバネクワガタが生息している。

※絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



ルリカケス

奄美大島とその周辺離島にのみ生息する固有種。ハトより小型で美しい瑠璃色の羽をもつカケスで、遠くヒマラヤに分布するインドカケスが本種と最も近縁種とされる。



アマミシカワガエル

奄美大島の固有種。緑色の地に金色の斑紋が鮮やかで「日本で最も美しいカエル」といわれている。沖縄島北部にのみ生息する近縁のオキナワシカワガエルと従来は同種とされていたが、現在は別種となっている。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)



オビトカゲモドキ

徳之島の固有種。本種と沖縄島に生息するクロイワトカゲモドキは種分化により生じた近縁種である。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)

徳之島



井之川岳



アマミノクロウサギ

奄美大島と徳之島の固有種。1属1種で近縁種は存在しない。目と耳介が小さいといった特徴をもち、現存するウサギの中で最も原始的な姿といわれている。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)



ケナガネズミ

奄美大島、徳之島および沖縄島の固有種。日本の在来ネズミ類のなかで最大で、名前の通り体の表面に長く6センチに達する剛毛を持つ、夜行性で主に樹上で生活している。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)



ヤエヤマセマルハコガメ

西表島と石垣島の固有亜種で、天然記念物に指定されている。主に林床の湿潤な照葉樹林に生息する。

※絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

西表島



浦内川

古見岳

後良川

西表野生生物保護センター



カンムリワシ

インド、インドシナ、台湾と南アジア一帯に広く分布し、日本では、石垣島と西表島に固有亜種が生息。餌はカエル、ヘビ、ネズミ、カニなど多岐にわたる。西表島ではイリオモテヤマネコとともに上位捕食者である。

※絶滅危惧ⅠA類 (CR)



イリオモテヤマネコ

大隅に分布するベンガルヤマネコの亜種で、西表島の固有亜種。西表島の最上位の捕食者で、登録地域唯一の肉食獣。西表島は、「ヤマネコの生息する世界最小の島」として知られている。

※絶滅危惧ⅠA類 (CR)



コケタンボポ

登録区域の4島の固有種。溪流の岩場に生育し、草丈3〜5cmで、直径1.5mm程度の小さな花をつける。

※絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



ヤンバルクイナ

沖縄島北部の固有種で、日本唯一飛翔能力のない鳥類。種の保存法に基づく保護増殖事業により、飼育下繁殖が行われている。

※絶滅危惧ⅠA類 (CR)



ヤンバルテナゴカゴネ

沖縄島北部の固有種。体長は5〜6cmで、日本最大の甲虫である。大塚木が生育する自然林で見られる。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)



オキナワセッコク

沖縄島北部の固有種。イスノキなど大径木の樹上に着生するランで、冬から春季に開花する。

※絶滅危惧ⅠB類 (EN)



奄美大島世界遺産センター

奄美大島の森と生き物を実際にフィールドを歩いているように体感することができる再現フィールドや、奄美大島の自然を守るための取組やルールに関する展示コーナーがある。奄美群島国立公園の適正な利用促進と密猟盗掘対策等の安全管理の拠点となっている。2022年環境省設置。

※裏表紙参照



野生生物保護センター

環境省により奄美大島、沖縄島北部、西表島に設置されている。地域特有の野生生物展示により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、国内希少野生動物植物種の保護増殖事業、調査研究等を推進する拠点となっている。

沖縄島北部

やんばる野生生物保護センター

与那覇岳



ヤンバルクイナ生態展示学習施設

ヤンバルクイナの生態展示を行い、保護活動についての普及啓発を行っている。2013年国頭庁設置。

奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island,
Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island

顕著な普遍的価値

☑ (x) 生物多様性

島の成り立ちを反映した独自の生物進化を背景とした、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性の保全上重要な地域

豊かな生物多様性

世界遺産登録区域の面積は、日本の国土面積の 0.5% に満たないにも関わらず、日本の動植物種数に対して極めて大きな割合を占める種が生息・生育しています。例えば、維管束植物は 1,819 種（日本全体の 26%）、陸生・陸水性の脊椎動物は約 740 種（約 57%）、そして約 6,150 種（約 21%）の昆虫類が生息・生育しています。これらのなかには、IUCN レッドリストに掲載されている世界的な絶滅危惧種 95 種のほか、環境省のレッドリストに掲載されている 540 種以上の絶滅危惧種が含まれます。また、ここでしか見られない固有種が数多く分布しています。特に、陸生哺乳類では 62%、陸生爬虫類では 64%、両生類では 86% と極めて高い固有種率を示しており、サワガニ類はすべてこの地域の固有種です。このように、生物多様性の保全にとって極めて重要な地域となっています。



アマミシスミ
(IUCN、環境省の両レッドリストに掲載)

島の成り立ちを反映した独自の生物進化

このような生物種数の多さ、絶滅危惧種や固有種の数の多さと割合の高さは、琉球列島の成り立ちに深く関係しています。琉球列島はかつてはユーラシア大陸の東端を構成していましたが、地殻変動により、ユーラシア大陸から鎖状に分離し、小さな島々からなる列島が形成されました。この小さな島々に陸域生物が隔離され、独特で豊かな生物相を形成しながら進化してきました。このためこの地域では、容易に海を越えられない飛翔能力のない動物や植物で、固有種が多いのが特徴です。固有種のなかでも、昔は広く大陸などにも分布していた生物が島々に隔離されたことで、大陸にいた共通の祖先が絶滅した後も昔ながらの形態をとどめながら生き残ってきた「遺存固有種」（アマミノクロウサギ、ケナガネズミなど）や、各々の島の環境に適応するよう独自の進化を遂げた「新固有種」（トカゲモドキ類、ハナサキガエル類など）は、島の成り立ちを反映した生物進化の過程を示す代表的な固有種です。



※ コガタハナサキガエルとオオハナサキガエルは石垣島にも分布
ハナサキガエルの島ごとの種分布

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産の保護管理

世界遺産登録区域を含む4島は有人島で、野生生物の生息・生育環境と住民生活の場が近接しています。そのため世界遺産の保護と住民生活との共存を図る地域として、日本の自然遺産で唯一、緩衝地帯（バッファゾーン）を設定しています。さらに、外来種対策や希少種の違法採集対策など資産の保護上必要とされる広域的な取組を行う地域として、登録区域及び緩衝地帯を取り囲む「周辺管理地域」を設定しています。これらの3種の区域を対象に、4島全体を包括する管理計画のもと、多くの関係者が協力し、効果的な管理を図っています。

世界遺産登録区域内の保護地域の面積

奄美群島国立公園	特別保護地区：5,094 ha 特別地区：9,061 ha
やんばる国立公園	特別保護地区：2,949 ha 特別地区：4,772 ha
西表石垣国立公園	特別保護地区：4,624 ha 特別地区：16,198 ha

(環境省所管の保護地域)

取り組み事例



マングースバスターズ

奄美大島と沖縄島北部では、外来種であるマングース駆除のために、各島 30 名前後のチーム（マングースバスターズ）を編成するとともにマングース探索犬を導入し、計画的な捕獲及びモニタリングを実施しています。加えて沖縄島北部では、マングースが高密度に分布する中南部からの侵入を防止するための北上防止柵を設置しています。取組の結果、奄美大島では 2019 年度、2020 年度は 1 頭も捕獲されておらず、根絶に近い状況になっています。

飼い猫の適正飼育

世界遺産登録区域ではネコによる希少種の捕食が確認されており、また希少種への疾病の感染による影響も懸念されています。そこで、4 地域すべてで、飼い猫の適正飼育に関する条例が制定され、飼い主の情報登録したマイクロチップ装着、室内飼育の徹底が進められています。



ロードキル対策

4 地域では、アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマメコをはじめとする希少な野生動物のロードキル対策として、事故多発路線への注意看板や道路侵入防止のための柵等の設置、島民や観光客に対する交通事故防止キャンペーン等を行っています。



観光管理

4 地域すべてにおいて、利用ルール等を定めた観光マスタープランや来訪者管理基本計画を策定し、適切な観光利用を推進しています。また、西表島では 2020 年 4 月に施行された「竹富町観光案内人条例」により、自然観光ガイド事業を行うための免許取得や講習の受講が義務化されています。免許を取得したガイドは、自然環境の知識のみではなく、水難救助員の資格など、さまざまな要件を満たしています。



地域関係者による 林道パトロール

沖縄島北部では、林道利用状況の把握及び違法採集防止の声かけのため、環境省、沖縄県、国頭村森林組合および地域住民が連携して、林道パトロールや違法採集防止に関わる各種法令の周知を行っています。2018 年から、地元警察、環境省、沖縄県、国頭村及び国頭村森林組合等と合同で密猟者の摘発を目的としたパトロールを実施し、警察官との連携体制も整えられました。



民間による 世界遺産の普及啓発等

2019 年に鹿児島県、沖縄県では世界自然遺産の登録を推進するために、各県内の 30 以上の企業・団体からなる世界自然遺産推進共同企業体が発足しました。これらの共同企業体は世界自然遺産に関する普及活動や希少種及び自然環境の保護などを通じてさまざまな課題解決や行政への協力を行っています。また、自然環境の活用を通じた地域貢献・地域振興にも取り組むこととしています。